

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	APIMo中山教室[児童発達支援]		
○保護者評価実施期間	R7年 7月 1日 ～ R8年 6月 30日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	7 (回答者数)	4
○従業者評価実施期間	R7年 7月 1日 ～ R8年 6月 30日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3 (回答者数)	3
○事業者向け自己評価表作成日	R8年 7月 10日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	研修体制、会議制度	定期的な職員会議や事例検討を通して、支援方針や児童の状況について情報共有を行い、職員間で共通理解を図っています。また、法人内外の研修へ積極的に参加し、学んだ内容を事業所内で共有することで、支援の質の向上と職員の専門性の向上に努めています。	職員ミーティングや振り返りを通して情報共有や業務改善に取り組んでいますが、時間の確保が課題となっています。今後は、定期的な振り返りや意見交換の機会を充実させ、PDCAサイクルを活用しながら、継続的な業務改善と支援の質の向上に努めていきます。
2	相談への迅速な対応	保護者等からの相談については、相談内容に応じて管理者または児童発達支援管理責任者を中心とした対応体制を整え、迅速な対応に努めています。必要に応じて連携事業所とも情報共有やケースの確認を行い、多角的な視点から適切な支援につなげられるよう取り組んでいます。	保護者等からの相談に対し、より迅速かつ的確な対応ができるよう、職員間の情報共有や相談内容の進捗管理を徹底するとともに、必要に応じて関係機関や連携事業所との連携を強化し、継続的な支援体制の充実を図っていきます。
3	運営規定の遵守や個別支援計画に沿った支援体制、各種マニュアルの整備	運営規程や各種マニュアルを職員間で共有し、支援内容にばらつきが生じないよう共通理解を図っています。また、モニタリングや日々の支援記録をもとに個別支援計画を定期的に見直し、お子様の成長や保護者のニーズに合わせた支援となるよう継続的な改善を行っています。	モニタリングや保護者面談を実施し、お子様やご家庭のニーズを踏まえた個別支援計画を作成するとともに、運営規程や各種マニュアルに基づいた適切な支援を行っています。一方で、支援内容や運営に関する情報については、常勤職員だけでなく非常勤職員へも確実に共有できるよう、情報共有の機会や時間の確保に努め、より統一した支援体制の構築を進めていきます。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	第三者等の外部評価、スーパーバイザー	開所2年目を迎え、近隣の支援機関や学校との連携も少しずつ増え、情報共有や支援方法の検討など、地域とのつながりが着実に広がってきています。また、自治体や関係団体が実施する外部研修への参加機会も増え、他事業所や専門職との交流を通して、外部からの助言や専門的な知見を支援に取り入れる機会が増えてきました。今後は、地域ネットワーク会議や事業所連絡会への継続的な参加に加え、外部研修等で築いた関係性も活かしながら、第三者による助言や専門的スーパービジョンにつなげる体制づくりを進めてまいります。外部の視点を積極的に取り入れることで、支援の質の向上と職員の専門性向上を図り、より良い事業所運営につなげてまいります。	開所2年目を迎え、管理者・児童発達支援管理責任者を中心に、近隣の支援機関や学校との連携を積極的に進め、情報共有や支援方法の検討を行う機会が増えてきました。また、自治体や関係団体が実施する外部研修へ継続的に参加し、他事業所や専門職との交流を通して、新たな支援方法や専門的な視点を学び、日々の支援へ反映するよう努めています。一方で、第三者による定期的な外部評価や専門的スーパービジョンを受ける体制については、まだ十分とは言えない状況です。今後は、外部研修や関係機関との連携を通じて築いたネットワークを活かし、専門職や第三者からの助言を積極的に取り入れる機会を増やしていきます。また、支援内容を客観的に振り返る仕組みを整え、職員間で学びを共有しながら、支援の質の向上と職員の専門性のさらなる向上につなげてまいります。

2	支援前後の共有や擦り合わせ、プログラムのチーム立案	[課題] ・活動・業務・担当に関する内容だけでなく、事務的な予定や研修、児童の様子などについても、職員間で積極的に情報共有を行う必要がある。現在は翌日に簡単な共有を行っているが、情報量が不足しているため、児童の支援に関わる重要な情報を確実に共有できる体制づくりが課題である。 [振り返り] ・現在も情報共有は行っているものの、内容が簡易的になり十分に伝わっていない場面があることが課題として挙がった。今後は共有する内容を整理し、活動・業務だけでなく児童の様子や事務連絡等も含めて、必要な情報を確実に共有できる体制づくりを進めていきたい。 [プログラムのチーム立案について] ・現在APIMoでは、常勤・非常勤ともに児童指導員等がそれぞれ担当プログラムを持ち、企画から実施まで責任を持って取り組んでいます。担当職員のためのルーティンワークとならないよう、職員間でアイデアを共有するとともに、管理者・児発管への事前相談や確認、修正を行い、チームで企画・立案することを改めて確認しました。また、連携事業所からの活動内容や支援方法に関するアイデアも積極的に取り入れ、各事業所の実践を参考にしながら、より質の高い支援につながるよう連携を図っています。これらを踏まえ、現行のプログラム内容をさらにブラッシュアップできるよう、企画書の作成方法や事前周知事項の見直しについて検討を行いました。	情報共有の内容や方法を見直し、活動・業務だけでなく児童の様子や事務連絡、研修内容等についても必要な情報を適時・適切に共有できる仕組みづくりを進めます。また、担当者だけで企画を進めるのではなく、職員間での意見交換や管理者・児発管による確認、連携事業所との情報交換を継続し、多角的な視点を取り入れながらプログラム内容の充実を図ります。あわせて、定期的な振り返りを行い、支援内容や運営体制を継続的に改善することで、より質の高い支援の提供に努めてまいります。
3	地域連携や幼稚園、保育所等各機関との連携、ペアトレや家族交流	地域施設への外出やさんぽ等を通して地域との交流を図るとともに、保護者会の開催や日々のコミュニケーションを大切にし、お子様の様子を共有しながら家族支援につながる取組を行っています。児童・保護者・地域とのつながりを大切にした支援を心掛けています。	保護者支援においては、年に2回の機会（①保護者会での交流、②8月に予定しているふれあい祭り）を通じて、保護者同士が交流できる機会を設けております。しかし、今回実施した事業所評価アンケートでは、ペアレント・トレーニングのような学びの場や、保護者同士が情報共有や悩みを相談できる交流の機会を増やしてほしいというご意見をいただきました。そのため、交流行事を実施する際には、保護者同士がゆっくりと話し合える時間をこれまで以上に確保できるよう、プログラムや進行方法を工夫してまいります。また、8月に開催予定のふれあい祭りでは、子どもたちが夏休み期間に日々の活動の中で練習してきた成果を、多くの保護者の皆様にご覧いただける機会として企画しております。子どもたちの成長や頑張りを直接感じていただくことで、事業所での支援への理解を深めていただくとともに、保護者同士の交流のきっかけにもつなげていきたいと考えています。

	その他、アンケート結果やご要望等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	日々の様子をもっと共有してほしい	お子様の様子がより伝わるよう、LINE公式アカウントでの活動配信を定期的に行い、日々の活動や成長の様子を保護者へ分かりやすく発信できるよう努めています。今後も配信内容の充実を図り、よりきめ細かな情報共有に取り組んでいきます。